



映画の感想♪

「チェルノブイリの時間経過を経ての庶民の生々しい現状や、関東圏の子供たちの一時避難とその母たちの事実の姿にあらためて、放射能汚染の酷さを実感できました。」

「(若い人が) 保養することの重要性がよく分かりました。」

「選択する人々の苦悩が私にしっかり届いてきました。自分だったらどうしたんだろう、どうするだろう。『福島の子どもたちは青空の下で元気に飛び回っています』と笑顔でテレビ画面に写っていたアベさん(安倍首相)のあの声が、悪マの声で耳に響いて くやしくてたまりません。」

「国と東電の起こしたことは、重大な犯罪だとあらためて思います。私たち一人一人が告発し続けなければ、そして現在の戦争法制はじめ悪法の数々とたたかい続けなければ。」

まだ見てない方、各地で上映会が開催されています。
ぜひ見てくださいね♪

測定所ミニ講演会『いま、市民の測定所が果たす役割とは?』(抜粋)

情報化社会の中では、情報が発信されなければ、ないことにされてしまう。原発事故・放射能汚染に関する記事は驚くほど少なくなった。これでは放射能が消えたように錯覚させられてしまうのではないか?

政府は、居住制限区域(年間被曝線量が20~50ミリシーベルト)まで2017年3月に解除しようとしている。ここはどんな土地なのか。飯館村の細川牧場の突然死した馬の心臓を京都測定所で測った時、セシウム137と134合算で106Bq/kgだった。この牧場では今年7月に31頭目の馬が死んでいる。阪神測定所が調べたところ、牧場の土はセシウム137だけで22,700Bq/kg、馬糞がセシウム137だけで2,670Bq/kg、牧草がセシウム137だけで78.1Bq/kgあった。

今年8月31日に発表された福島県民健康管理調査で、甲状腺がんが137例に達した。今年9月の写真週刊誌に、がんの手術をした20歳の女性が証言が載り、悲痛な体験を語っている。

今月10日の新聞には、米原子力空母「ロナルド・レーガン」の元乗組員250人以上が、東日本大震災時の「トモダチ作戦」で浴びた放射能による健康被害を訴え、提訴した記事が載った。すでに2人が骨膜肉腫や急性リンパ球白血病で亡くなっている。

原子力規制委員会は今年7月8日、原発事故後の作業員の被曝上限を100ミリシーベルトから250ミリシーベルトに引き上げることを提案。「世界で最も厳しい水準」どころか、電力会社が容易に原発再稼働へ。

環境省は、燃やせない汚染土をセシウム濃度で分別し、低濃度の土を埋め立てや建築資材として利用できるようにする事業研究を助成。被曝拡大の政策を進めている。

京都測定所は、原発事故避難者とともに歩み、市民感覚、人権感覚を大事にしてきた。これからも測定と帰還政策批判をむすびつけ、勉強会や今回の測定所まつりのようなイベントを開き、情報を発信していく。